

2021/8/14

(オマケの英語教室 a la carte) 書庫版



本日は気の向くままに。

会話をしていて知っている「繋ぎ」として結構助かる言葉があります。

例えば

Anyway (兎に角)

By the way (ところで)

Then(a) (それで、それから) ※(a)は語呂を整える為に時々付きます (読みはゼンナです)

Oh my god (あらま)

At least (少なくとも)

What should I do (どないしょ)

Why (なんでやねん)

What happen (どったの?)

等です。

いずれも短い言葉なので覚えておくと便利です。

「短い言葉」といえば、日本の人は話をするときに割合と説明口調で、瞬間の感情表現をするにも話し言葉の一文が長くなる傾向があるのですが、外国の人は「後にも先にもそれっきり」みたいな感じで感情表現に関する一文の長さはとても短いことが多いように感じます。

例えば

Wow, cute!! (わっ、キャワイイ!!)

後にも先にもそれっきりとか。

あるとすれば後は表情やジェスチャー (一人大袈裟芝居) で表現することが多いみたいです。言葉による説明はその後一切省略、見たような感じです。

後、日本語を英語に転換するときに注意しなくてはならないのが「直訳」です。

上述の wow, cute といった迄はいいのですが、例えばその後

「(かわいすぎて) アタマがぶっ壊れた」を

My head got broken

と英訳すると、相手は驚いて

(Oh my god!! What happen? ) Go to hospital A.S.A.P (直ぐ病院に行けよ)

となってしまう。

ここは

My brain got jammed (脳みそがグチャグチャだ)

I already got fallen into crazy mode (もうキチガイモードになっちゃった)

You are too much strong poison for me (俺には毒過ぎる)

と漫画チックに言った方がいい(通じる)ようです。

因みに日本語で言うところの「頭(頭部)」ではなく「アタマ」は、英語では head を使わずに brain (脳みそ) を使うことの方が多いい気が致します。

又、日本語で言う「分かった」つまり「分かる」の過去形での表現になるものは、英語では英語の過去形の表現

I understood

と言ったり使われたりしたのは耳にした事がなく、大抵は現在形の

I understand (分かったわ)

で表す場合が殆どようです。

直訳は物事を考える切り口としては使えますが、会話でそのまま使うのは一考を要する場面が多い気がしております。